

野菜病害虫発生予察情報

令和6年度 第1号
発行日：令和6年4月12日

調査日 令和6年4月10日（水）
調査圃場 45圃場（軟弱、トマト、スイートコーン、にら、ねぎ、たまねぎ、いちごなど）
調査機関 神戸農業改良普及センター、JA全農兵庫県本部、農薬・肥料メーカー
JA兵庫六甲神戸西営農総合センター・各支店
発行 JA兵庫六甲神戸西営農総合センター

品目	適用病害虫	発生程度	発生予想	薬剤	散布液量	希釈倍数 (または 使用量)	使用時期	本剤の 使用回数
ほうれんそう	ハウレンソウ ケナガコナダニ	中	並	モベントフロアブル	100～ 300L/10a	2000倍	収穫14日前 まで	3回以内
	べと病	-	並	アリエッティ水和剤		1500倍	収穫前日ま で	2回以内
レタス	菌核病	少	並	アフェット フロアブル		2000倍	収穫前日	3回以内
たまねぎ	べと病	中	増	リドミルゴールド MZ ※1		500～ 1000倍	収穫7日前 まで	3回以内
いちご	ハダニ類	少	並	フーモン	150～ 500L/10a	1000倍	収穫前日ま で	-

※1 ジマンダイセン水和剤との合計使用回数に注意！

【たまねぎのべと病に注意！！】

多くのたまねぎの圃場でべと病の発生が見られました。今後も発生の好適な環境と予想されていますので、圃場をよく観察し注意して下さい。

◆対策◆

- 罹病した株は、直ちに抜き取りビニールに密閉して圃場の外で処分する。周辺半径2m程の株については特に注意して確認してください。
- 薬剤散布をしていない圃場では発生の有無にかかわらず、薬剤防除する。

【害虫の発生に注意！！】

気温の上昇に伴い、アザミウマ類やアブラムシ等、害虫の増加が予想されます。発生の予防や初期対応を心がけましょう。

【ナメクジ類の対策について】

ハウスの軟弱野菜でナメクジやカタツムリによる食害がみられました。今後も発生が続くと予想されます。

対策①発生源を除去する

- ハウス、圃場内及び周辺の雑草等を除去する。(枯草等も住処になるため、置いたままにしない。)
- 生息地に薬剤を処理する

対策②被害発生初期に薬剤処理する

- 葉の間に潜むようになると薬剤への誘引効果が低いので、野菜の中へ入り込む前に処理するのが良い。

【薬剤例】スラゴ

※作物へかからないように注意！



部会では薬剤の種類・散布回数に独自制限がありますので注意してください。
農薬散布は使用方法を必ず守り、近隣作物へ飛散しないようにしましょう。